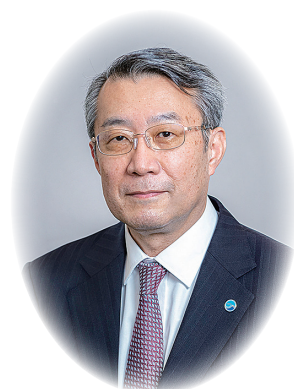


理事長メッセージ ～読者のみなさまへ～



新たな科学技術で海洋立国日本の実現を支え、国民、社会、
そして地球の持続的発展・維持に貢献する

令和7年9月
国立研究開発法人海洋研究開発機構

理事長 大和裕幸

国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）は、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋科学技術の水準の向上を図るとともに、学術研究の発展に資することを目的とする国立研究開発法人です。当機構の主務大臣である文部科学大臣から示された第4期中長期目標（目標の期間：2019年4月1日～2026年3月31日）においては、海洋基本計画や持続可能な開発目標（SDGs）等示される国内外の状況変化や課題を踏まえ、JAMSTECは引き続き我が国の海洋科学技術の中核的機関としての役割を担うことが求められています。第4期中長期目標のなかには、「地球環境の状況把握と変動予測のための研究開発」が掲げられており、地球温暖化に代表される地球環境の「現在」を把握し、「将来」を予測するための研究開発を通じて国際貢献に繋げる取組みを継続しております。

本報告書は、「環境配慮促進法」に基づき、JAMSTECの事業活動に伴う環境負荷や、その負荷を低減させるための取組みなど、JAMSTECの環境パフォーマンスの概要をまとめた報告書ですが、環境に係る取組み以外にも安全や社会的取組み並びに2024年度の研究開発成果をまとめたTOPICSや組織概要等を網羅した内容となっており、社会やステークホルダーの皆様に対して事業者としての有用な情報を提供することで説明責任を果たすとともに、環境コミュニケーションを促進する報告書となっております。

JAMSTECの温室効果ガスの削減については、2024年7月1日に「国立研究開発法人海洋研究開発機構地球温暖化対策実行計画」を改正し、「政府実行計画に準じ、2013年度を基準として、JAMSTECの事業活動に伴い発生するエネルギー起源の二酸化炭素排出量を2030年度までに総量として50%削減することを目標とする。」としておりますが、2024年度の温室効果ガス排出量は、2013年度を基準として約34%の削減率となり、2023年度の約45%削減と比較しますと残念ながら排出量として約17%の増加となっております。増加の主な要因としましては、JAMSTECの保有する船舶の運航形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）の変動により、燃料油の使用量が増加したことに伴い、エネルギー消費に由来する二酸化炭素排出量が増加したためと考えられます。2030年度までの温室効果ガス排出量の50%削減目標を見据え、地球温暖化対策を計画的に推進してまいります。

JAMSTECは、海洋探査・研究開発を通して持続可能な人類社会の実現に向けた様々な課題に柔軟に対応するとともに、外部とのインターフェイス機能の強化を含め、研究・技術・運用・事務が一体となり、我が国の発展に貢献してまいります。本報告書を通じて、JAMSTECのさまざまな取組みについてご理解いただきますとともに、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。